

過ぎているので、No.3でも10月より前に最大密度を示すであろうと推定できる。

これから、リュウキュウスガモもリュウキュウアマモ同様、夏期に株数が多くなり、冬期に少なくなるという変化をすると推測できるが、最繁茂期と考えられる6～8月の調査を欠いているので次年度以降の継続調査が必要であろう。

(2) 海草の付着藻調査

昨年度に引続き海草の付着藻の種類及び重量を調べた。

種組成は昨年度とほとんど変わらず、イバラノリとワツナギソウが周年みられ、冬期に繁茂するものにオキナワモズク、カゴメノリがあった。

図-3.にアジモ葉部湿重量 ($g/25 \times 25 \text{ cm}$) とそれに対する付着藻の湿重量比を示し、表-2.には主要な付着藻の月別の湿重量 ($g \times 25 \times 25 \text{ cm}$) を示した。図-3.には昨年度の調査結果も付け加えて表わしたが、付着藻の春季の増加傾向が著しい。

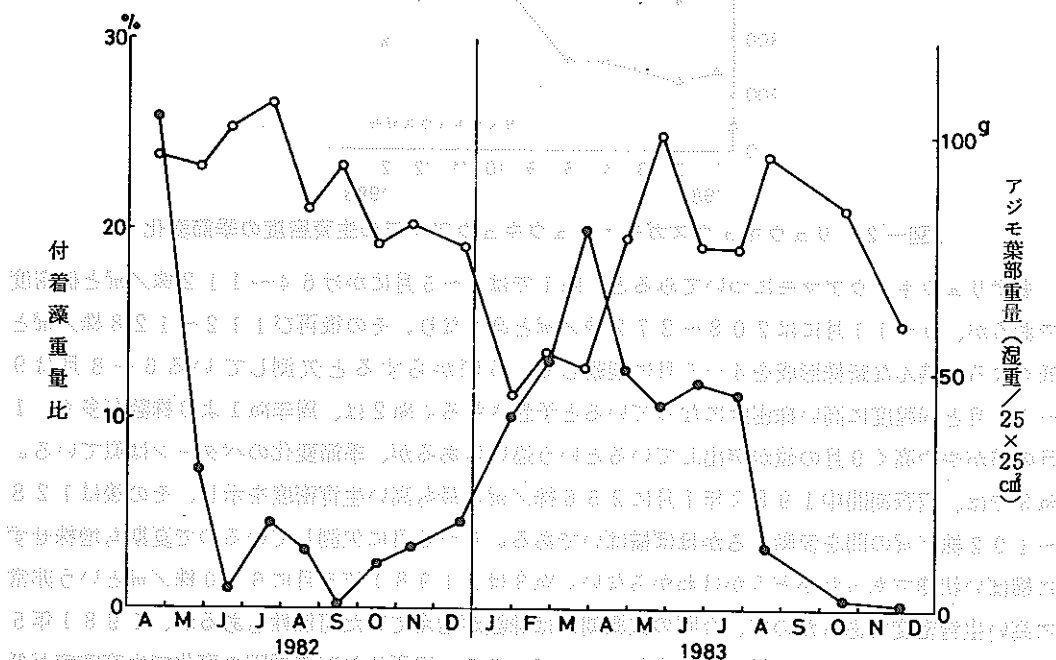


図-3. アジモ葉部重量(○)とそれに対する付着藻重量比(●)

表-2. 主要な付着藻の月別湿重量 ($g/25 \times 25 \text{ cm}$)

採集日	イバラノリ	ワツナギソウ	オキナワモズク	カゴメノリ	アミジグサ
1982. 3. 26	4.83	0.57	3.50	0.62	+
4. 26	4.39	1.68	3.07	0.71	0.21
5. 24	8.74	0.24	1.02	-	0.69
6. 24	7.99	0.43	0.03	-	0.07
7. 23	7.53	0.23	-	-	0.14
8. 17	2.84	0.25	-	-	0.01
10. 18	0.58	0.01	-	-	0.19
12. 2	0.19	0.02	-	-	-